

第6分科会 「図書館運営の在り方」

助言者 千野布美子（中信教育事務所指導主事）

司会者 新津貴子（軽井沢中部小学校）

発表者 米山美保（朝陽小学校）

武田道子（丸子北中学校）

1 発表の概要

（1）米山美保先生 テーマ「図書館はいつもあなたの『読みたい』『知りたい』『調べたい』を応援します」

・本を分類番号順に整理（職員作業やPTA作業で行う）・学習できる図書館へのアプローチ（レイアウト変更、新聞コーナー設置、公共図書館との連携等）・図書館から発信する（掲示板の設置、新刊本紹介コーナー、図書館HP作成）・図書館を利用できる力をつける（図書館利用指導、学校司書との協働、資料収集の方法を知る）・図書館教育研究グループの取り組み（図書館を使った授業の一人一公開授業）

（2）武田道子先生 テーマ「丸子コスモス大学お話作り」

- ・自分たちで本を作る過程で、テーマについて調べる方法を学ぶ。
- ・テーマに沿った調べ学習をし、そのことについて書いたり、オリジナル小説にしたり、お話や詩を書いたりして、一人1冊の本を作成する。
- ・製本を行い、物作りの楽しさを知り、成功体験をする。

2 討議の概要（5グループに分かれてグループ討議）

- ・おすすめ本の紹介カードや、分類方法（色分け）など、たいへん参考になった。
- ・7校を兼務している（岐阜県の司書）。年間指導計画があればいいと思う。
- ・時間のなかでこれだけの実践はすばらしい。小規模校で本が古く少ないのが悩み。
- ・学校司書の位置づけがない。行政に訴えていく必要がある。
- ・新聞コーナーを昇降口に設置して多くの子どもたちがすぐ読めるように工夫したり、先生方のおすすめの本をカードにして1冊の本にしたり、教科書に載っている本のブックリストを作成したり、参考になることがたくさんあった。実践していきたい。
- ・大規模校だと1クラス1時間の図書館の時間だけで、1週間の時間割が埋まってしまう。そのため図書館で調べ学習をしたくても時間がとれない。また、学校司書も空き時間が無く、本を修理する時間もない。勤務時間外にやらなくてはならない。
- ・司書教諭と学校司書が連携して、子どもたちにとって魅力ある図書館にしていく必要がある。が、現実には司書教諭が学級担任なので、なかなか時間がとれず、話し合ったり、企画を考えたりすることが難しい。どうしたらよいか。
- ・子どもたちの貸し出し冊数にこだわるのはどうか。厚い本を読む子は冊数も少ない。
- ・図書館の管理のコンピューター化がまだの学校がある。早く進めていただきたい。

3 まとめ（助言者の指導）

- ・今年度の全国学力テスト（中学校・国語）に、雑誌の記事の「宇宙エレベーター」が出た。「この記事について疑問に思ったことを図書館で調べるとしたら、どのように調べるか」という設問の正解率が49%と低かった。図書館でどう調べたらいいのかが分からない生徒が多いということ。図書館教育が今後ますます必要になってくる。
- ・これまでの学習は、答えの求め方が大切だったが、これからは「何を学ぶか」「どのように学ぶか」に重点が置かれる。